

令和7年度

学校自己評価システムシート

(さいたま市立大宮北中学校)

学校番号

222

【様式】

学 校 教 育 目 標	◆人間性豊かな実践力のある生徒～たしかな学力　ゆたかな心情　たくましい身体～
目 指 す 学 校 像	◆生徒一人ひとりが「来甲斐」「居甲斐」「やり甲斐」のある学校　◆伝統の継承と新たな構築による信頼される学校
重 点 目 標	1　学びの自律化と個別最適化、学びの探究化に向けた取組の推進 2　自己肯定感、自己有用感、豊かな情操、道徳心等の豊かな人間性の育成 3　連携・協働を目指したコミュニティスクールの推進 4　教育環境の整備と安心・安全な学校づくりの推進 5　ワークライフバランスの充実と常に学び続ける教師の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学びの質の向上に
関する取組

心の子
のサポ
ートに
関する
取組

学校
づくりに
関する
取組

教育環境の整備に
関する取組

教職員のキャリア形成に
関する取組

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」（国語・数学）は概ね良好な結果である。 ○日頃の学習状況の様子から、どの教科でも課題に対し、真面目に取り組む姿勢が見られる。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果から、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」の項目が他の項目と比較して課題が見られる。 ○日頃の学習状況の様子から、意欲的に学習活動に取り組む生徒が多い中、自ら主体的に物事を解決する姿勢に課題が見られる。	学びの自律化・個別最適化・探究化	①1人1台のタブレット端末を効果的に活用し、課題に対し自力解決の場を設定するなど、生徒主体の授業を実践する。 ②スタディサブリの効果的な活用を実践し、生徒の学びの個別最適化、自律化、探究化を図る。	①多くの教員が生徒主体の授業に挑戦することができたか。 ②学校評価「授業の内容を理解」の肯定的な回答の割合を向上させる（生徒前年90%保護者前年73%）					
		キャリア教育の充実	①埼玉県進路指導・キャリア教育研究発表会に向けて外部講師を招聘し職員の研修を深める。 ②CSCシートを活用して生徒の実態を分析するとともに、自らの進路を切り拓く基礎的・汎用的能力を育成する。	①外部講師を招聘して小・中一貫のキャリア教育研修を実施することができたか。 ②CSCシートアンケートの肯定的な回答の割合を向上させる。					
2	<現状> ○心と生活のアンケート結果から、自己肯定感の低い生徒が見受けられる。 ○日頃の生活の様子から、人間関係のトラブルなどを抱えている生徒も少なくない。 <課題> ○いじめの撲滅と不登校生徒の減少に向けて、組織的・計画的な生徒指導・教育相談体制のさらなる充実が課題である。 ○不登校生徒に対して、個に応じた多様な学び場の提供を積極的に検討し、提案していく必要があり、誰一人取り残されない教育の実現が課題である。	自己肯定感・自己有用感の向上	①本校の特色である「歌声の響く学校」を前面に掲げ、伝統ある学校行事を通じて愛校心を高め、生徒の帰属意識や所属意識を高める。②大宮北中憲章に基づく生徒の自主的・主体的な活動を一層促進し、生徒の自己有用感を育む。	①学校評価「楽しく学校生活を送る」（生徒）に対する肯定的な回答の割合を前年よりも向上させる（生徒前年93%保護者前年83%）②いじめ対策委員会や生徒集会等を通じて出された生徒の意見を学校全体で具現化させる。					
		迅速な組織対応及び誰一人取り残されない学びの場の提供	①生徒指導部会、教育相談部会を中心に生徒一人ひとりの状況を共有し、迅速かつ適切な組織対応を行う②不登校生徒を相談室、Sola るーむ、Growth等に適切に繋ぎ、誰一人取り残されない学びの場を提供する。	①学校評価（教職員）の生徒指導分野の肯定的な回答の割合を向上させる。（教職員前84%） ②学校評価（教職員）の教育相談分野の肯定的な回答の割合を向上させる。（教職員前年85%）					
3	<現状> ○学校に協力的な保護者及びPTA、そして本校生徒に温かい眼差しを向けてくださる地域の方々に支えられ、学校運営ができています。 <課題> ○コロナ禍において、以前小学校や地域と協働で行ってきた学校地域協働活動等が中断されたものがある。地域に貢献し、地域に愛される生徒の育成を目指すことにより生徒の自己有用感を高める必要がある。	保護者・地域への積極的な情報発信とコミスクの周知	①学校公開、保護者会、学校だより、学校HPに加えてアプリ（がくぷり）を活用し保護者への情報発信力を強化する ②民生児童委員連絡協議会を実施する。	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合を向上させる。（保護者前年83%）②学校評価「コミスクの周知」の肯定的な回答の割合を向上させる（保護者前年25%）					
		地域貢献・地域協働活動の充実	①氷川参道清掃作業について小学校と地域と検討を行う。②公民館主催ボランティア、大宮アルディージャとの交流等、地域貢献活動の場へ希望者を募り生徒を積極的に参加させる。 ②学校運営協議会を通じて地域貢献・地域協働活動の情報提供を依頼する。	①地域貢献活動・学校地域協働活動を実施することができたか。 ②学校運営協議会の熟議を通じて有効な情報を収集することができたか。					
4	<現状> ○体育館エアコン設置工事が終了し、快適な運動活動や集会活動を行うことができていますが、夏休みから体育館・武道場のリフレッシュ工事が始まり、来年・再来年校舎の工事が始まる。 <課題> ○校舎の老朽化に伴い、雨漏りが多発する。校庭の木々も老朽化による倒木の恐れがあるものが点在している。	施設・設備の安全管理及び円滑なリフレッシュ工事の実施	①全職員で定期的な安全点検を毎月1回行い、危険箇所の早期発見と修繕を徹底して行う。②体育館、武道場の改修工事に伴い部活動等の活動場所を確保し円滑に工事に移行する。	①毎月の安全点検と緊急性のある修繕・整備の完全実施をすることができたか。 ②体育館・武道場部活等の代替場所の確保ができたか。					
		会計予算の適切な執行・処理	①計画的かつ迅速な予算執行を行うとともに寄付申請や追加配当申請を適切に行う。②PTAと連携しながら会計監査を確実に実施する。	①学校予算の執行残を限りなくゼロに近づけることができたか。 ②学期に1回の監査を適切に実施し明朗な会計処理を実施することができたか。					
5	<現状> ○自らのキャリア形成に役立てるため、積極的に自主研修に参加を希望している教員が多い。 ○特別休暇や年休を活用し子育てや介護との両立を適切に図っている職員が多い。 <課題> ○教育熱心なあまり退校時間の意識が薄れて、在校時間が長くなっている傾向がみられる。 ○校務のICT化及び紙の縮減については、まだまだ改善の余地がみられる。	ワークライフバランスの充実	①校務のICT化や紙の縮減を通じて業務の一層の効率化を図るよう研修を行う。 ②管理職、主任等のリーダーシップにより計画的年休の取得を強く奨励する。	①学校評価「研修」における肯定的な回答の割合を向上させる。（教職員前年76%） ②職員の年休取得率を向上させる。					
		学び続ける教師の育成	①人事評価当初面談においてコーチングの手法を用いて、職員一人ひとりの研修プランについて指導する。 ②自主研修の開催情報をteam s等を用いて積極的に周知する。	①自主研修に参加する教員の割合を増加させる。					